

## ■本事業の助成対象者を利用頻度に応じて限定すべきかどうか

問 15 外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P35～37)

グループ1及び一般回答者の約半数は、「現行額より少額になっても、1回でも利用している方にも助成すべき」と考えており、バスの乗車回数が月10回未満と回答した方と同程度の割合である。

グループ2とグループ3の「現行より少額になっても、1回でも利用している方にも助成すべき」はグループ1の約半数であり、バスを利用されないグループは、ある程度乗車している方に限定すべきという考えをもっている方が一定いる。

単位: %

| グループ                          | ある程度<br>乗車している方に<br>限定して助成 | 現行より少額になっ<br>ても1回でも利用<br>している方にも助成 |
|-------------------------------|----------------------------|------------------------------------|
| グループ1<br>(70歳以上・バス運賃助成事業利用者)  | 18.7                       | 53.0                               |
| グループ2<br>(70歳以上・バス運賃助成事業未利用者) | 24.4                       | 25.0                               |
| グループ3<br>(65歳以上 70歳未満)        | 32.8                       | 30.0                               |
| 無作為抽出者全体                      | 23.9                       | 41.2                               |
| 参考:一般回答者<br>(無作為抽出者以外)        | 24.3                       | 45.9                               |

## ■阪急グランドパスへの助成を検討すべきかどうか

問 16 阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P38、39)

阪急グランドパスについては、どのグループも「知らない」が大半を占める。

一方、グループ2で「利用している」は7.1%であり、問8(P13)のバスの乗車回数の回答と合わせると、バスの乗車回数が多い人は本事業を利用せず、阪急グランドパスを利用していると推測できる。

### 阪急グランドパスとは

70歳以上の方が使える定期券。(金額が異なる65歳以上用も有り)。芦屋市内だけでなく、芦屋を通らない路線も利用できるうえ阪神バスも利用できます。

バスに乗られている回数によっては、現在の助成事業より本人負担及び芦屋市の補助額は減少します。他の自治体では、阪急グランドパスの購入代金を助成しているところもあります。

参考 バスの乗車回数別、市民の方の自己負担額 1年定期代:53,600円(R6年12月1日現在)

| 1月あたりの<br>バスの乗車回数 | 現行事業の場合の<br>1年当たりの自己負担額 | 1月あたりの<br>バスの乗車回数 | 現行事業の場合の<br>1年当たりの自己負担額 |
|-------------------|-------------------------|-------------------|-------------------------|
| 60回(月30日)         | 86,400円                 | 25回(月12日)         | 36,000円                 |
| 50回(月25日)         | 72,000円                 | 20回(月10日)         | 28,800円                 |
| 40回(月20日)         | 57,600円                 | 15回(月7日)          | 21,600円                 |
| 30回(月15日)         | 43,200円                 | 10回(月5日)          | 14,400円                 |

例えば、定期代を20,000円助成するとすれば、市民の方は33,600円でグランドパスを購入できることになり、月24回(月12日)以上乗られる方は、今より自己負担が減ることになります。

単位:%

| グループ                          | 利用している | 知らない |
|-------------------------------|--------|------|
| グループ1<br>(70歳以上・バス運賃助成事業利用者)  | 6.7    | 67.3 |
| グループ2<br>(70歳以上・バス運賃助成事業未利用者) | 7.1    | 77.4 |
| グループ3<br>(65歳以上70歳未満)         | 5.1    | 78.8 |
| 無作為抽出者全体                      | 6.3    | 72.5 |
| 参考:一般回答者<br>(無作為抽出者以外)        | 9.4    | 62.8 |

問 17 阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P40～43)

阪急グランドパスの購入代金を助成した場合、全グループで「今より外出回数が増加する」が10.2%～23.1%いるが、50%を超える方は「現行回数の維持」ができるか、もともとバスに乗車する回数が少ないので「影響はない」と考えられている。大幅とは言えなくても、助成することが外出する回数の増加・維持につながる可能性があると言える。

単位:%

| グループ                           | 増える<br>どちらかと言え<br>ば増える | 現行回数の維持<br>影響はない |
|--------------------------------|------------------------|------------------|
| グループ1<br>(70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)  | 12.2                   | 53.0             |
| グループ2<br>(70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者) | 10.2                   | 59.0             |
| グループ3<br>(65歳以上 70 歳未満)        | 19.4                   | 58.4             |
| 無作為抽出者全体                       | 14.0                   | 55.6             |
| 参考:一般回答者<br>(無作為抽出者以外)         | 23.1                   | 48.3             |

問 18 阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P44～47)

グループ1は「購入代金助成の必要はない」が1番多い。本事業利用者のバス乗車回数がそれほど多くないことが影響していると思われる。

どのグループも「どちらとも言えない」が一定多いのは、問16(P28)にあるように、阪急グランドパスを知らない方が多いことが影響していると思われる。

どのグループも、「購入代金助成を優先」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が、2～5倍程度となっている。また「1回の利用にも助成があれば賛成」が「購入代金助成を優先」より多いことも踏まえると、阪急グランドパス購入代金の助成を行う場合は、1回の利用に対する助成を残したうえで、助成額を検討する必要がある。

単位:%

| グループ                          | 購入代金<br>助成を優先 | 1回の利<br>用にも助<br>成があれば賛成 | 賛成であるが助成<br>額は検討すべき | どちらとも<br>言えない | 購入代金<br>助成の必要はない | そもそも<br>事業を廃止すべき |
|-------------------------------|---------------|-------------------------|---------------------|---------------|------------------|------------------|
| グループ1<br>(70歳以上・バス運賃助成事業利用者)  | 5.1           | 17.3                    | 15.0                | 28.5          | 18.1             | 2.4              |
| グループ2<br>(70歳以上・バス運賃助成事業未利用者) | 3.6           | 13.1                    | 20.8                | 29.2          | 10.1             | 8.9              |
| グループ3<br>(65歳以上 70歳未満)        | 10.6          | 15.4                    | 28.7                | 24.6          | 10.2             | 5.1              |
| 無作為抽出者全体                      | 6.5           | 16.0                    | 20.1                | 27.5          | 14.3             | 4.3              |
| 参考:一般回答者<br>(無作為抽出者以外)        | 7.7           | 20.4                    | 19.9                | 27.1          | 17.1             | 3.3              |

バス利用回数とのクロス集計では、「月 31 回以上バスに乗る」方でも「購入代金の助成を優先すべき」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が多い。

「バスに乗らない」方も、「購入代金助成の必要はない」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が多く、事業自体に理解を示してくださっていると推測できる。

「購入代金助成の必要はない」の割合が高いのは、乗車回数が月 21～30 回(月10～15日程度利用)の方であるが、助成される金額によっては、現行の助成方法より本人負担が少なくなる層であり、阪急グランドパスを知らない方が多いことが影響していると推測できる。

単位：％

| グループ     | 購入代金<br>助成を優先 | 1 回 の 利<br>用 に も 助<br>成 が あ れ<br>ば 賛 成 | 賛 成 で あ<br>る が 助 成<br>額 は 検 討<br>す べ き | ど ち ら と<br>も 言 え な<br>い | 購 入 代 金<br>助 成 の 必<br>要 は な い | そ も そ も<br>事 業 を 廃<br>止 す べ き |
|----------|---------------|----------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 月 31 回以上 | 22.7          | 16.7                                   | 27.3                                   | 13.6                    | 10.6                          | 0.0                           |
| 月26～30回  | 9.4           | 3.1                                    | 31.3                                   | 21.9                    | 18.8                          | 0.0                           |
| 月21～25回  | 2.4           | 22.0                                   | 22.0                                   | 17.1                    | 22.0                          | 0.0                           |
| 月15～20回  | 10.1          | 13.5                                   | 22.5                                   | 24.7                    | 15.7                          | 2.2                           |
| 月10～14回  | 4.8           | 17.3                                   | 16.3                                   | 33.7                    | 18.3                          | 1.0                           |
| 月5～9回    | 5.2           | 11.3                                   | 20.9                                   | 28.7                    | 18.3                          | 5.2                           |
| 月 1～4回   | 7.8           | 25.0                                   | 16.1                                   | 25.0                    | 12.8                          | 2.8                           |
| 年数回程度    | 3.7           | 15.2                                   | 20.7                                   | 31.1                    | 13.4                          | 4.3                           |
| バスに乗らない  | 1.9           | 11.0                                   | 21.9                                   | 32.9                    | 11.6                          | 13.5                          |

## VIII 高齢者が充実させるべきと思う高齢者施策

### POINT

■問19:全てのグループで、**加齢に伴う高齢者特有の施策を望む**回答が1番多い。

問 19 あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

(資料集:P48～50)

グループ2、グループ3、無作為抽出者全体で 1 番求められているのは、「高齢者の見守り等安心して暮らせる対策」である。特にグループ3では、6割近くが求めている。他に要望が高いのが「認知症対策」「健康づくりに関する対策」「終活や身寄りのない高齢者に関する支援」「要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援」等、全体的に将来安心して暮らせる施策への回答が多い。

単位:%

| 選択肢                      | グループ1<br>(70 歳以上・<br>バス運賃助成<br>事業利用者) | グループ2<br>(70 歳以上・<br>バス運賃助成<br>事業未利用<br>者) | グループ3<br>(65歳以上<br>70 歳未満) | 無作為抽<br>出者全体 | 一般回答<br>者(無作為<br>抽出者以<br>外) |
|--------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------|--------------|-----------------------------|
| 認知症対策                    | 47.0                                  | 42.3                                       | 53.9                       | 48.3         | 51.0                        |
| 健康づくりに関する対策              | 47.0                                  | 36.3                                       | 42.3                       | 43.8         | 53.8                        |
| 社会参加促進に関する対策             | 27.4                                  | 22.6                                       | 36.9                       | 29.4         | 42.6                        |
| 高齢者の見守り等安心して暮らせる対策       | 46.7                                  | 47.6                                       | 57.0                       | 49.9         | 51.3                        |
| 歩行具や車椅子の補助等歩行支援          | 26.8                                  | 29.2                                       | 33.4                       | 29.2         | 26.5                        |
| 要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援 | 32.7                                  | 31.0                                       | 37.9                       | 34.0         | 35.6                        |
| おむつの補助等介護支援              | 19.5                                  | 23.8                                       | 29.7                       | 23.3         | 20.2                        |
| 高齢者のゴミ出し支援等生活支援          | 24.8                                  | 30.4                                       | 30.7                       | 27.6         | 30.5                        |
| 補聴器が必要な方への支援             | 24.8                                  | 21.4                                       | 22.9                       | 23.6         | 24.8                        |
| スマートフォンの使い方教室等 IT に関する支援 | 23.6                                  | 16.7                                       | 18.4                       | 20.8         | 20.6                        |
| 終活や身寄りのない高齢者に関する支援       | 39.4                                  | 42.3                                       | 49.8                       | 43.0         | 45.9                        |
| その他                      | 4.9                                   | 8.3                                        | 3.4                        | 5.1          | 5.4                         |
| 標本誤差                     | ±3.7                                  |                                            | ±5.6                       | ±3.1         |                             |

単位：％

| ①無作為抽出者全体                                |      | ②グループ 1                                  |      | ③グループ 2                                  |           | ④グループ 3                                  |      | ⑤一般のみ                                           |      |
|------------------------------------------|------|------------------------------------------|------|------------------------------------------|-----------|------------------------------------------|------|-------------------------------------------------|------|
| 高齢者の見<br>守り等安心<br>に暮らせる<br>対策            | 49.9 | 認知症対策                                    | 47.0 | 高齢者の見<br>守り等安心<br>に暮らせる<br>対策            | 47.6      | 高齢者の見<br>守り等安心<br>に暮らせる<br>対策            | 57.0 | 健康づくり<br>に関する<br>対策                             | 53.8 |
| 認知症対策                                    | 48.3 | 健康づくり<br>に関する対<br>策                      |      | 認知症対策                                    | 42.3      | 認知症対策                                    | 53.9 | 高 齢 者 の<br>見 守 り 等<br>安 心 に 暮<br>ら せ る 対<br>策   | 51.3 |
| 健康づくり<br>に関する対<br>策                      | 43.8 | 高齢者の見<br>守り等安心<br>に暮らせる<br>対策            | 46.7 | 終活や身寄<br>りのない高<br>齢者に関す<br>る支援           |           | 終活や身寄<br>りのない高<br>齢者に関す<br>る支援           | 49.8 | 認 知 症 対<br>策                                    | 51.0 |
| 終活や身寄<br>りのない高<br>齢者に関す<br>る支援           | 43.0 | 終活や身寄<br>りのない高<br>齢者に関す<br>る支援           | 39.4 | 健康づくり<br>に関する対<br>策                      | 36.3      | 健康づくりに<br>関する対策                          | 42.3 | 終 活 や 身<br>寄 り の な<br>い 高 齢 者<br>に 関 す る<br>支 援 | 45.9 |
| 要介護度が<br>高い方(バス<br>に乗れない<br>方)への移<br>動支援 | 34.0 | 要介護度が<br>高い方(バス<br>に乗れない<br>方)への移動<br>支援 | 32.7 | 要介護度が<br>高い方(バス<br>に乗れない<br>方)への移動<br>支援 | 31.0      | 要介護度が<br>高い方(バス<br>に乗れない<br>方)への移動<br>支援 | 37.9 | 社 会 参 加<br>促 進 に 関<br>する対策                      | 42.6 |
| 標本誤差：±3.1                                |      | 標本誤差：±3.7                                |      |                                          | 標本誤差：±5.6 |                                          |      |                                                 |      |

## IX まとめ

### 1 アンケートの妥当性

本アンケートは、自治会等の協力もあり、多くの回答(回答率64.6%)を得ることができた。また、無作為抽出者以外の回答数も573件と多く、高齢者にとって関心のある事業ということが言える。

標本誤差は、65歳以上70歳未満の回答が $\pm 2.4\%$ ～ $\pm 5.6\%$ 、70歳以上の回答が $\pm 1.6\%$ ～ $\pm 3.7\%$ 、全体が $\pm 1.3\%$ ～ $\pm 3.1\%$ 内に収まっている。

### 2 本事業は必要な事業なのか

約9割の高齢者が、外出は介護予防につながると認識しており、実際に本事業利用者の9割以上が「介護度:認定なし」と回答している。

外出頻度と割引証の関係では、割引証を所有することで外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」「維持できている」が合わせて68.4%おられ、割引証所有の有無で外出頻度にも差がある。

外出の目的でみると、外出すること自体が日常的な生活の堅持、生きがい活動にもつながっている。

移動手段をみると、70歳を超えると阪急バスを利用する方の割合が高く、自分で運転することを移動手段としている方の割合が低いことも踏まえると、加齢に伴う公共交通機関への移動手段の転換が見られる。

それらの状況を踏まえると、本事業は介護予防に役立つ必要な事業と言える。

また、今後利用が予定される65歳～69歳の方の68.9%が、本事業の利用を「申請する」「どちらかと言えば申請する」と回答しており本事業への期待も高い。

### 3 本事業における市民の割引証所有に対する意識

割引証を申請しない理由は、「バス路線が近くに通っていない」よりも、「徒歩や自転車で十分だから」等、バスを利用しなくても移動できることの方が高い割合となっている。

割引証の所有率は地域差があるものの、地域によるバス路線の有無ではなく、地域内に駅や商業圏があるといった地域特性が大きい。

バス運賃の助成を受けている市民の53.7%が、月の乗車回数が10回未満であることも踏まえると、移動の基本は徒歩や自転車であるが、週に1回程度バスに乗るために本事業を利用している方が多い。

### 4 本事業を持続可能な事業とするにはどうすればよいか

事業自体は必要であるが、本事業に対する支出という観点でとらえると、

①今後、高齢者が増加する

②バス運賃の値上げがあると支出額が増加する

といった状況を踏まえると、支出額は増加する一方であると予測される。令和7年度予算では、1億円を超える予算額となっており、支出額の抑制が課題となっている。

事業自体の必要性はP34に記載したとおりであるが、事業の存続に関する問いでは、全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。地区別に見ても全地区で同様の回答となっており、バスに乗らない方も含めて乗車回数別に見ても同様である。

助成対象者を、乗車回数が多い方に限定するかについては、「助成額が減額等になっても、1回でもバスを利用している方へも助成を継続する」が多い。

そのため、事業は廃止せず、対象者を限定しない上で、事業費減額の方法について検討する必要がある。

助成額を減少した場合は、バスの乗車回数が多い市民ほど影響が大きい。駅から遠く、バスの利用が生活に必要な地域もあるため、阪急グランドパスの助成は有効な選択肢の一つと言える。ただし、乗車回数が少ない方への助成が継続できることが前提であるため、事業を存続させる上では、1回当たりの助成額及び阪急グランドパスへの助成額を十分に検討するとともに、阪急グランドパスの認知度が低いため、市民への周知が必要と考えられる。

なお、アンケートの結果から、阪神バスの利用者が市民の10%程度いること、現在、本事業による助成を受けずに阪急グランドパスの利用者がいることが分かる。

また、阪急グランドパスへの助成が外出促進になると考えている市民が一定いることを踏まえると、阪急グランドパス購入代金への助成が、さらなる高齢者の外出促進の向上につながる可能性がある。

## 5 今回のアンケート結果から見る市民の意識

今回のアンケート結果から、利用者が本事業を必要としているだけでなく、本事業の利用者以外の方も、本事業を必要と考えていることが見てとれる。また、乗車回数が多い方も「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多く、回数が少ない方への助成も併せて希望されている。これらの結果から、回答いただいた方々が、自分の立場以外の方のことも考慮して、高齢者施策として本事業を必要と考えられていると推測できる。

今後必要とされる施策については、加齢に伴う高齢者特有の施策が多く、特に65歳以上70歳未満の方でその傾向が高い。そのことは将来に対する不安の表れとも推測でき、介護予防として本事業を継続するための見直しを進めながら、バスに乗ることが難しくなる場合も視野に入れた施策を検討していく必要がある。



## 高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート(報告書)

---

令和 7 年 8 月

発 行 芦屋市

〒659-8501 芦屋市精道町 7 番 6 号

TEL : 0797-38-2044 FAX : 0797-38-2160

E-MAIL : [koureikaigo@city.ashiya.lg.jp](mailto:koureikaigo@city.ashiya.lg.jp)

助言・協力 流通科学大学 経済学部 地域まちづくりコース 三谷 哲雄 教授

編 集 芦屋市こども福祉部福祉室高齢介護課